

## Ⅱ 連携・交流事業

### 1) 地域交流事業

#### 地域交流事業 1 食農教育実践支援事業 枝豆農業体験

担当者：食物栄養学科 専任講師 長屋郁子

主催：JAぎふ、岐阜県農政部、全岐阜県生活協同組合連合会

開催日時：平成30年4月19日（木）～平成30年10月5日（金）

会場：岐阜市曾我屋 JAぎふ合渡支店前選果場、岐阜市西郷枝豆農家、  
本学栄養指導論 Lab（3-101）

参加者数：約40名

2012年度から食農教育実践支援事業として枝豆を通じた農業体験活動が継続して行われている。岐阜市の特産野菜の一つである枝豆は、本学の位置する地域で生産されており、学生たちが身近な地域で農業体験をすることによって、ものづくりの重要性と困難さを学び、「食」の意味について理解を深めるため企画された。

本事業は毎年、JAぎふ、農産物生産者の方々、岐阜県農政部、全岐阜生協連の温かいご支援により成り立っている。体験事業はまず、4月19日（木）に体験を希望する学生が自主的に集まり、岐阜県農林事務所の川部知氏、JAぎふの仲村憲明氏より、岐阜市の枝豆についてレクチャーを受けた。次いで定植体験を5月7日（月）に行う予定であったが、雨天予報により急遽前日に実施した。6月30日（土）は生産者の圃場で、収穫・選別といった農作業を体験した。7月14日（日）には枝豆選果場で行われるJAぎふ主催の枝豆収穫体験祭にスタッフとして参加し、試食用の枝豆を茹でて来場者に味比べをしてもらうなど、多くの人で賑わう収穫祭運営を支える体験をした。参加した学生からは、「選別作業を一緒にやってみて、技術のすごさを痛感した。毎日長時間やっていたらしゃるのはすごいと感じた。」「茹で上がったばかりの枝豆の甘味に驚いた。」「普段かかわることのできない方々と交流できてよかった。」などの感想が寄せられた。これらの体験は、10月5日（金）の活動報告会にて報告し、意見交換も行った。



## 地域交流事業2 援農プロジェクト「ワーキングホリデーin 長良ぶどう」2018

担当者：食物栄養学科 准教授 堀 光代

主催：JA ぎふ長良支店、岐阜市園芸振興課長良ぶどう部会

開催日時：平成30年5月26日（土）～6月24日（日）の希望日

会場：岐阜市長良雄総周辺ぶどう畑

参加者数：3名

岐阜市の長良地区は、古くからぶどうの生産が行われているが、生産農家の高齢化が進んできている。そのため、ぶどう農家の方への手助けとともに若い人たちに農業への理解を深めてもらうことを目的として援農プロジェクト「ワーキングホリデーin 長良ぶどう」が2013年からスタートした。

本学の学生は初年度から継続して援農プロジェクトに参加してきた。学生は開催期間内から希望日を申し込み、実施日にJA ぎふ長良支店に集合し、各ぶどう農家に伺い、ぶどうの生育時期に合わせた作業を行った。これまでの参加者は毎年15名～20名だったが、昨年は4名、今年は3名と減少傾向がみられた。

学生からの感想では、「朝から夕方まで、ぶどうに傘かけ作業を行いました。お世話になった方の農園はいくつもあり、私は3つの農園で作業をしました。蒸し暑い中での淡々とした作業が続き、農家の方の大変さを実感しました。」「ぶどうは様々な種類があり、ぶどうの大きさも異なるため、それぞれのぶどうに適した扱いがあることを学びました。良いぶどうを育てるために他の木を切ることや、1本1本に時間をかけて育てていることがわかりました。」「この体験を通して、食べ物の大切さ、感謝の気持ちをもって食べることを改めて感じることができました。栄養士として食べることの大切さ、すばらしさ伝えていきたいです。」などの声があった。

以上のように、この援農プロジェクトは、農家の方々と直接交流する大変貴重な体験であり、ぶどう農家での作業を通じて多くの学びがみられた。

### 地域交流事業3 柳ヶ瀬商店街の空き地活用(岐阜大学特別講義会場の飾り付け)

担当者：岐阜大学工学部 准教授 出村 嘉史  
生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主催：岐阜大学自然科学研究科

開催日時：平成30年6月13日(水) 14:45~18:00

会場：日ノ出町2丁目の空き地特設会場

受講者数：約85名

岐阜大学自然科学研究科の特別講義(講師：西村浩氏(株式会社ワークヴィジョンズ代表取締役))が柳ヶ瀬商店街の空き地を利用して開催された。岐阜大学工学部出村嘉史准教授の企画である。

会場構成と設営の大半を岐阜大学出村研究室が行い、本学臼井研究室の学生も会場設営の予行練習と会場を彩るガーラントやカラフルな日よけを作る事で協力した。

特別講義には学生約70人と地域住民約15人が参加した。その後、空き地特設会場にて、西村氏、地域住民、学生および教員との交流会が催された。



## 地域交流事業 4 柳ヶ瀬商店街の空き地活用（レンガワークショップ）

担当者：岐阜大学工学部 准教授 出村 嘉史  
生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主催：岐阜大学工学部出村研究室  
岐阜市立女子短期大学臼井研究室

開催日時：平成30年12月2日（土）14:00～17:00

会場：日ノ出町2丁目の空き地特設会場

受講者数：20名

柳ヶ瀬商店街の空き地を有効に活用する際に使用するレンガを作るワークショップを行った。岐阜大学出村研究室と本学臼井研究室とが中心市街地の賑わいを作ろうとする一連の試み「プロジェクトF」の一部である。

企画、レンガの手配、会場設営を含む多くを出村研究室が行い、臼井研究室は企画段階での議論と、当日のワークショップに参加した。将来の街を担う現在の学生の今後の活躍が期待される。



## 地域交流事業5 第59回 全国大学・高専卒業設計展示会

担当者：生活デザイン学科 教授 服部 宏己、専任講師 加藤 祥子、  
助教 臼井 直之

主催：日本建築学会

開催日時：平成30年6月28日（木）～6月29日（金）

会場：岐阜市立女子短期大学 3-411 教室

来場者数：87名

日本建築学会主催の全国の建築系大学・高専の卒業設計作品展で岐阜での展示会である。全国の建築系の大学・高専から各校（学科）1点に限定し、計174点の優秀作品を集めた展示会で、本学からも平成29年度の2年生の卒業作品を平成30年3月に出品し、他校の作品とともに展示した。力作ぞろいの作品群は本学学生をはじめ、建築デザインを志す全ての学生の心を揺さぶるものであった。



## 地域交流事業6 市役所南庁舎のウィンドウでの衣装作品展示

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 中谷 友机子

主催：岐阜市役所

開催日時：平成30年6月29日（金）～ 10月1日（月）

会場：市役所南庁舎

期間を7期に区切り、各期2作品ずつを展示した。作品は、生活デザイン学科ファッション専修の平成29年度卒業作品の中から選んだ。

市役所南庁舎ウィンドウは長良橋通りに面しており、前にはバス停もある。多くの市民に観ていただく機会となった。作品に紫外線等の影響が出ないように、展示期間を細かく区切った。

## 地域交流事業 7 第 34 回美殿町商店街ガス灯夏祭りへの出店

担 当 者：岐阜大学工学部 准教授 出村 嘉史  
生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主 催：美殿町商店街

開催日時：平成 30 年 8 月 11 日（土）17：00～21：00

会 場：美殿町通り

美殿町商店街主催の美殿町ガス灯夏祭りに出店スペースをお借りして、岐阜大学工学部出村研究室と本学臼井研究室の合同チームで参加した。

学生たちがスチレンボードやバルサを使った模型作りを教えるワークショップ形式の出店には、たくさんの親子連れが訪れた。学生と子ども達とがコミュニケーションをとりながら物づくりをする、楽しげな明るい雰囲気を作り出した。

岐女短生が日頃から学んでいる模型作りと、岐阜大生による企画の構想力および実行力とがうまく噛み合い、地域に対しても大学の力をアピールできたのではないかと考える。



## 地域交流事業8 岐阜マザーズコレクション

担当者：生活デザイン学科 准教授 中谷友机子、助教 柴田佐和子

主催：一般社団法人 岐阜ファッション産業連合組合

開催日時：2018年10月1日（月）～10月5日（金）

会場：ギフコレ・ウイーク会場

参加者数：3名

岐阜マザーズコレクション・コンテストは、岐阜ファッション産業ブランド確立支援事業としてプロジェクトされました。岐阜アパレルメーカーと未来のデザイナーを目指す学生とのコンテスト形式の産学共同コラボレーション支援企画です。

ターゲットは「お母さん」、コンセプトはお母さんに着てもらいたい「素敵な服をおしゃれに着易く、さらに斬新な未発表のオリジナルデザイン」であります。

一次審査で選ばれた優秀なデザインの“デザイン画”を基に、作品製作（型紙製作から縫製まで）いたします。今回は、ファッション専修の1年生3名がデザイン画一次審査で入選し、作品製作いたしました。その中、1名が岐阜市長賞をいただきました。

## 地域交流事業9 第62回 ぎふ信長まつり武者行列参加

担当者：生活デザイン学科 助教 柴田佐和子

主催：岐阜市

開催日時：平成30年10月7日（日）9時～15時

会場：岐阜市内

参加者数：26名

平成13年より、ぎふ信長まつり実行委員会(岐阜市役所商工観光部内)からの依頼で、信長公騎馬武者行列の腰元役に本学学生が参加している。今年は、26名の学生が参加した。今年は、信長役に男性アイドルグループ MAG!C☆PRINCE の永田薫氏を迎え、盛大に武者行列が行われた。腰元には、3種類の衣装が用意されており、菅笠に杖、小袖に袴、薙刀、そして袴姿で矢を担ぎ、弓を持つ役である。できる限り学生の希望に添うように隊列を調整してもらっている。早朝から着付け、食事、写真撮影の後、騎馬武者行列の一員として、JR 岐阜駅南の清水緑地公園を出発し市役所を経て、岐阜公園まで向かう。当日は、10月にも関わらず、気温30度を超す真夏日で、炎天下の中での武者行列となったが、学生たちには学生生活の思い出となる良い経験になった。

## 地域交流事業10 ワークショップ「黒板付きスケッチブックをつくろう」

担当者：生活デザイン学科 准教授 奥村 和則

主催：生活デザイン学科

開催日時：平成30年10月27日（土）13:00～15:30

会場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：18名

公開講座としての募集不調のため、大学祭の企画として Instagram による告知と会場来場者への掲示にて受講生を募ったところ、定員を超えた人数となった。

時間的な制約から、予め黒板塗料を塗布・乾燥させたボードをこちらで準備しておき、それに対し、受講生はチョークアートなどを施し、その後製本化した。また別途、受講生者にも黒板塗料の塗布体験を行ってもらい、そのポイントについて説明をした。進捗速度が受講生によって大きく異なったことから、順次サポートが行えたことは良かったが、予想以上のサポート作業量に、作業風景や完成品の撮影が不可能であった。



告知用 Instagram に掲載した作品例

## 地域交流事業 1 1 平成 30 年度 卒業研究・卒業制作展示

主 催：生活デザイン学科

開催日時：平成 30 年 12 月 18 日（火）～12 月 23 日（日）  
10 時～18 時（最終日 23 日（日）は 15 時まで）

会 場：ぎふメディアコスモス みんなのギャラリー

来場者数：6 日間合計 651 名 （在学生含む）

本学 2 年間の集大成として、各専修の学生が独自のテーマを駆使し研究に取り組み成果ある作品を展示した。ファッション専修では、映画衣装から着想を得た作品やマイスタイルファッションの制作、ブランド企画や様々な染織作品を展示した。建築・インテリア専修では、家具や建築物の提案、さらに、地域活性化による建築構造の研究などを展示した。ヴィジュアル専修では、オリジナルキットやパッケージデザイン、Web サイトなど、アイデア溢れる作品を展示した。



## 地域交流事業 1 2 平成 30 年度 卒業研究発表会 (研究発表・ファッションショー)

主 催：生活デザイン学科

開催日時：平成 30 年 12 月 22 日 (土) 13 時～16 時 (会場 13 時)

会 場：みんなの森 ぎふメディアコスモス・みんなのホール

来場者数：94 名 (在学学生含まない)

平成 30 年度卒業研修発表会をぎふメディアコスモス・みんなのホールで開催した。研究発表は 6 名、研究紹介では各千州含めて 42 名、ファッションショーでは 22 作品がそれぞれのテーマで登場し発表した。



## 地域交流事業 13 平成 30 年度 岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 活動展

担当者：生活デザイン学科 准教授 奥村 和則

主催：生活デザイン学科

開催日時：平成 31 年 3 月 1 日（金）～3 月 3 日

会場：岐阜県図書館 研修室 2・楽書交流サロン

来場者数：14 名（研修室 2 のみ計上）

生活デザイン学科の諸活動を、パネルや作品（制作物）にて紹介した。

展示ゾーニングとして、1 階の楽書交流サロンに学科紹介パネル、産学交流の事例紹介パネル、および、各教員の研究・実績パネルを展示した。2 階の研修室 2 には、平成 30 年度卒業研究・制作の学生作品を展示し、作品をみながら進学希望者への説明する機会を設けた。結果として、進学ガイダンスとしての機能を果たすことはなかったが、岐阜県美術館の主任学芸員の方、岐阜県図書館や岐阜市役所の方が来場し、連携の模索を打診された。1 階エントランス横の楽書交流サロンには、常に人が滞在し、各パネルを眺めていたことから、実数以上の効果があったと推測される。



左：楽書交流サロンでの展示

右：研修室 2 での展示

## 地域交流事業 14 第 18 回 ぎふ建築・生活・芸術系学生・生徒 優秀作品展

担 当 者：生活デザイン学科 教授 服部 宏己、助教 臼井 直之

主 催：日本建築学会東海支部岐阜支所

開催日時：平成 31 年 3 月 8 日（金）～10 日（日）

会 場：岐阜市民会館 展示ギャラリー

出展者数：12 展

本作品展は、岐阜県下の建築・生活・芸術系学生・生徒の育成の一助となることを目的として、毎年開催されている。応募者は高校生および短大・高専・大学生としている。審査員は、岐阜支所運営委員と岐阜県で活躍されている建築設計に携わる方々である。実践的な視点からの意見・講評を聞く良い機会ともなっている。今年度は、本学から 12 展を出展し、以下の賞を受賞した。

- 最優秀賞 Canal Flower ～若者が住みたい町に～
- 優秀賞 神様の通る道
- 一般審査賞 Hi! sen su
- 審査員特別賞 竹のなか、のびる灯  
神様の通る道  
定義はいらない ～公園の多様化を目指して～  
おいしいまち研究所
- 建築士会会長賞 竹のなか、のびる灯  
神様の通る道



プレゼンテーションの状況

## 地域交流事業 15 子ども食堂「あゆっこくらぶ」に Win-Win クラブ 学生が参加

担当者：食物栄養学科 准教授 堀 光代 (Win-Win クラブ顧問)

主催：子ども食堂 「あゆっこくらぶ」

開催日時：平成 31 年 3 月 9 日 (土) 12 時～13 時

会場：キッチン・ラトリエ・ドゥ・エム

参加者数：Win-Win クラブ学生 4 名

「子ども食堂」は全国に広がりを見せている。短大近くの岐阜市西中島の喫茶店、キッチン・ラトリエ・ドゥ・エムの子ども食堂「あゆっこくらぶ」は、月に 1 回の活動を行っている。この活動を岐阜大学「農場サークル」の学生と本学「Win-Win クラブ」の学生が支援しており、2 月の活動は毎日新聞 2019 年 2 月 13 日 (水) 版に紹介された。3 月の活動について学生からの報告と感想を以下に記す。

子どもたちは 12 時頃に 10 名程来店し、引率者、保護者を含めると 15 名程度の参加者でした。この日の献立は、ご飯、肉だんご、チキンプライ、アマゴフライ、千切りキャベツ、ミニトマト、ジャガイモの甘辛煮、小魚の佃煮でした。調味料として粗塩、ソース、胡麻ドレッシングがありました。食事はバイキング形式だったので、私たちは取り分けの補助や料理の説明などを行いました。

会場の子供達は、まんべんなくおかずを選ぶ子もいれば、好きなものだけを盛り付ける子もみられました。人気メニューの揚げ物は、後から来る子のためにまず 1 つだけ取る子がいて、私たちも優しい気持ちになれました。ミニトマトは人気でしたが、野菜をあまり取ろうとしない子がいました。野菜を取らない子には、こちらから声をかけてみましたが、難しかったです。また、箸を正しく持てない子が多くみられました。

子ども食堂の活動を通して、食べることの楽しさや「食育」について実践的に学ぶことができます。このような機会を与えて下さった岐阜大学の 大場先生とお店の方に感謝しています。今後、自然観察会や芋掘り会などの様々な活動が予定されています。活動の幅を広げながら積極的に子どもたちと触れ合い、楽しく充実した活動にしていきたいと思えます。

以上のように、子ども食堂の活動は、子どもたちと直接交流ができる機会である。実際の食育の課題を考えながら、より良い活動ができるように願っている。

## 2) 他大学交流事業

### 他大学交流事業 1 岐阜市立女子短期大学・岐阜大学地域科学部・連携事業 高校生のための街なかオープンカレッジ 2018 in 岐阜

担当者：岐阜大学地域科学部 教授 富樫 幸一、准教授 三谷 晋  
生活デザイン学科 助教 臼井 直之

主催：岐阜大学地域科学部・岐阜市立女子短期大学

開催日時：平成 30 年 8 月 11 日（土）10：30～15：30

会場：みんなの森 ぎふメディアコスモス 考えるスタジオ  
柳ヶ瀬あい愛ステーション

受講者数：18 名

高校生が大学での学びを体験する中で、地域に興味を持つ人材を育成する事を目的とし開催された。

午前の部は、『建築空間の見方』というテーマとした。みんなの森 ぎふメディアコスモスにはなぜ多くの人を訪れるのかを建築学の視点から解説した。講義形式での説明の後に、皆で施設を見て回った。午後の部は、『まちなかの魅力 - 新しくなった柳ヶ瀬商店街を探求する-』というテーマとした。ぎふメディアコスモスから柳ヶ瀬あい愛ステーションまで歩きながら、岐阜の街を観察しまちの成り立ちを地理学の視点から解説した。さらに、柳ヶ瀬商店街での新たな動きと将来の展望について、皆で議論するワークショップを行なった。



## 他大学交流事業 2 平成 30 年度多職種メディカルケアチーム医療教育 (MMeCTE : Multidisciplinary Medical Care Team Education)

担当者：食物栄養学科 専任講師 山田紀子、専任講師 長屋郁子、  
助手 酒井千恵

主催：岐阜大学医学教育開発研究センター

開催日時：平成 30 年 11 月 5 日（月）9：00～12：00

会場：平成医療短期大学

受講者数：食物栄養学科 2 年生 47 名

実際の医療現場では、チーム医療が必須であり、メディカルケアチーム（多職種連携チーム）をつくり、患者の治療やサポートを行っている。他職種メディカルケアチーム医療教育（MMeCTE : Multidisciplinary Medical Care Team Education）として、平成医療短期大学、岐阜薬科大学、岐阜大学、朝日歯科衛生士専門学校、岐阜市立女子短期大学の学生が、チーム医療を体験するプログラムに参加した。看護師、理学療法士、作業療法士、視機能訓練士、薬剤師、医師、歯科衛生士、栄養士をめざす学生が、ある症例を通して、どのような医療支援を提供するか話し合った。脳梗塞・糖尿病や高血圧を患う患者が、発病、入院生活を経て、退院・在宅療養への退院準備カンファレンスを自分達で行うことを最終目標とした。

今回の体験を通して、医療の中での栄養管理の必要性を確認することができ、画の専門分野を学ぶ学生との交流で、他職種の方の視点を知り、自分たちとは違った見方や考え方を知ることができ、MMeCTE に参加できたことは、栄養士を目指す学生にとって、将来につながるとても良い経験となった。

### 他大学交流事業3 岐阜大学応用生物学部との連携教育 ～家畜飼育と衛生管理の実際～

担当者：食物栄養学科 准教授 堀 光代

主催：岐阜大学応用生物学部、岐阜市立女子短期大学

開催日時：平成30年11月26日（月）、27日（火）

会場：岐阜大学応用生物学部附属家畜衛生地域連携教育センター（GeFAH）・岐阜フィールド科学教育研究センター

参加者数：食物栄養学科2年生 59名

平成27年度から栄養士養成課程の学生を対象とした衛生教育を岐阜大学との連携教育として行っている。目的は家畜（牛・鶏）の飼育方法や衛生管理を実際に学び、私たちの身近な食品の衛生管理について知識を深めることである。

学生はクラス単位で、岐阜大学応用生物科学部附属家畜衛生地域連携教育研究センター（GeFAH）・岐阜フィールド科学教育研究センターを訪問した。

午前中は、岐阜大学の教員から「岐阜大学農場の概要」と「草からミルクができるまで」の講義を受けた。

午後からは全員が防護服を着用し、消毒方法を実践してグループに分かれて牛舎と鶏舎に入った。乳牛と卵用鶏の飼育方法と衛生管理等を担当者から聞き、実際に動物と触れ合う体験も行うことができた。

牛乳や鶏卵は、私たちが普段当たり前に購入し、食卓で欠かせない食品のひとつである。これらが衛生的に生産管理され、安全性が確保されていること、安全に食卓に届くために何が行われているのかについて深く知ることができる体験であった。学生からは「講義で学んだことを実際に体験することで生産者の方々の努力を理解し、命を頂くことの大切さを理解した」との感想が多く聞かれた。



## 他大学交流事業 4 ネットワーク大学コンソーシアム岐阜「学生による地域課題解決提案事業」

担当者：国際文化学科 教授 川上新二  
食物栄養学科 専任講師 長屋郁子  
生活デザイン学科 助教 臼井直之  
食物栄養学科 教授 道家晶子（地域連携・産学連携部会）

主催：ネットワーク大学コンソーシアム岐阜

開催日時：平成 30 年 12 月 22 日（土）12：30～17：30

会場：岐阜大学サテライトキャンパス

受講者数：2 年生 12 名

ネットワーク大学コンソーシアム岐阜に加盟する大学等の学生が、地域の課題について研究し、その解決策を提案する平成 30 年度「学生による地域課題解決提案事業」が実施され、本学からは、国際文化学科、食物栄養学科及び生活デザイン学科の 8 件（12 名）が参加した。

成果報告会は、2 会場に分割して実施され、第 1 会場では、食物栄養学科 長屋研究室の学生 2 名が『離乳食をわかりやすく伝える子育て支援～岐阜市乳幼児健診での試み～』、続いて、国際文化学科の学生 4 名が『岐阜市内の「小さな神仏」の調査 ―地元文化の再認識のために：岐女短の周辺地域を中心にして―』、さらに、建築・都市デザイン研究室の学生 2 名が『川と共生する地域が来訪者を安全に楽しく受け入れるための調査・提案』、『岐阜のライブハウスを訪れる人を商店街の日常的な賑わいへと繋げるための調査・提案』を報告した。第 2 会場では、建築・都市デザイン研究室の学生 4 名が順に『岐阜の廃線利用』、『地域の歴史・産業を活用し、地域包括ケアの拠点をつくるための調査・提案』、『下呂市小坂町を地域の温泉観光地へ』『人気施設の”裏側”を将来にも続く賑わいへとつなげるための調査・提案』について報告した。学生達は担当教員の指導のもと、専門性を活かした知見をパワーポイントに作成し、明瞭な発表方法に努め、審査員をはじめ他大学の教員や学生、地域の皆さんの前で堂々と成果報告した。質問に対しても戸惑いながらも真摯に答えていた。また、今回、第 2 会場の司会補佐、グループ懇談会のファシリテーター役として本学学生有志が活躍した。

参加学生は、他大学の研究発表を聞く機会や大学の枠を超えて交流する機会を得て、研究の専門性や継続の重要性を知る良い経験になった。



### 3) 産官学連携事業

#### 産学連携事業 1 スポーツウェアブランド「敬天粋人」ブランディングデザイン 2018

担当者：生活デザイン学科 准教授 小川 直茂、准教授 中谷 友机子、  
助教 柴田 佐和子

開催期間：平成 30 年 4 月 18 日（水）～平成 31 年 3 月 6 日（水）

参加者数：生活デザイン学科 1 年生約 10 名

本事業は、平成 28 年度から岐阜市のアパレルメーカー三敬株式会社との産学連携事業として継続的に取り組んでいるプロジェクトである。今年度は、アパレルブランド「敬天粋人」の商品開発の方向性について検討を重ね、ブランドコンセプトを「Spirit of Japan and Sports Casual」に決定した。1 年次後期の専門教育科目「課題研究」において商品企画をテーマにした授業を実施し、グラフィックデザイン研究室によるヴィジュアル提案、ファッションマーチャンダイジング研究室によるファッションアイテム提案を行った。これらの教育成果を基にサンプルを制作して、平成 31 年 3 月 5 日～6 日に開催されたファッション系イベント「ア・ミューズ岐阜」で展示を行い、好評を博した。なお、本事業の様子が 3 月 6 日付の岐阜新聞朝刊で取り上げられ、注目を集めた。





# 岐阜ブランド 新作発信

## ア・ミューズ岐阜開幕 ドン小西氏来場

岐阜市橋本町のじゅうろくプラザなどで5日開幕した岐阜アパレルの最新夏物を発信する「第28回ア・ミューズ岐阜」。同プラザでの各社の展示では、新たな岐阜ブランドのアパレル商品を開発する「岐阜シャツプロジェクト」の新商品や岐阜市立女子短期大とコラボレーションして作ったTシャツなど多彩な商品が並び、来場者の興味を引いている。ア・ミューズ岐阜委員会の糸尾幸治委員長は「今回はぎやかさの創出を主目的にファッションショーを充実した。狙い通りにできたと思う」と手応えを語る。（鈴木隆宏）



三敬は岐阜市立女子短期大とのコラボTシャツを展示した

## 学生とコラボTシャツや男性用下着展示

同プラザでは21社・団体が展示。岐阜市の繊維事業者でつくる岐阜シャツプロジェクトは、イタリア・フィレンツェ市の老舗シャツメーカー、ジーモス・イタリアと初めて共同開発し、6月発売予定のクールピス用シャツのサンプルを展示した。また同プロジェクトなどがフィレンツェ市のモード専門学校、ポーリモータに昨年派遣して研修を受けた学生による女性向けの



各社の展示を視察するドン小西氏(右)=いずれも岐阜市橋本町、じゅうろくプラザ(撮影・堀尚人)

シャツのデザイン画も初めて掲示した。同デザインは来年発表する新作の岐阜シャツに採用予定。プロジェクトに参加している柏屋商事(岐阜市問屋町)の武藤昭成社長は「引き続き岐阜ブランドを提案していく」と意気込む。スポーツアパレルの三敬(同市茜部大川)は、市立女子短大と連携して作成したTシャツ10点を展示。同短大との連携は3年目で、今回は二つの研究室でデジタルのデザイン、Tシャツにした場合の立体デザイン

を学生に作ってもらい、実際に仕立てた。團部泰敏社長は「卒業生で当社の社員になった人材もいるが、優秀。他社にも同短大をもっと知ってもらい、雇用に結び付くと岐阜アパレルの活性化につながるのでは」と訴える。下着などの問屋の大塚衣料(同市吉野町)は、これまで女性用の肌着やアウターを展示してきたが、今回初めて男性用の下着を展示して男性市場開拓を進めている。展示したのは同社が代理店契約を結ぶグンゼが、昨年7月に発表した「AIRZ」で、ウエストゴムがなく、着心地の良さが売り。大塚弘泰社長は「華やかさは女性向けの方があるが、変わったものを見せて当社の特色を出したかった」と話す。この日は、出展社でもあるアパレルメーカー、ワキタ(同市三歳町)の監修をしているファッションデザイナーのドン小西氏も昨年に続いて来場。小西氏は「岐阜にはハードがあるがソフトがない。他と連携するなどして、インパクトのある発信をしてほしい」とエールを送っていた。

## 産官学連携事業 2 テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした地場産業の振興に関する協定に基づく産学連携事業

### 車純子氏 2019年SSの素材トレンドセミナー

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 太田 幸一、  
准教授 中谷 友机子、助教 柴田 佐和子

主催：岐阜県毛織工業協同組合

後援：(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター、尾州テキスタイルデザイナー協会、日本毛織物等工業組合連合会

開催日時：平成30年4月23日(月) 13:30~15:30

会場：岐阜毛織会館(テキスタイル・マテリアルセンター)

受講者数：生活デザイン学科2年生17名

㈱東洋紡FPIで25年間紡績や原糸・テキスタイル開発に従事され、現在はフリーとして専門学校やファッション業界の人材育成に力点を置かれている車純子氏による「2019年 春夏カラー&素材傾向」セミナーを聴講した。2018年SS市場の素材傾向の特徴から2019SSトレンドカラーを分析、さらに2019年SSプレミアムビジョンのカラー&テキスタイル情報分析を聴講した。学生たちは2019年SSの明確な分析と現在のファッションの実状を読み取る、価値ある機会となった。

トレンドセミナー

**2019年 春夏カラー&素材傾向**  
OFFICE KURUMA 車 純子 氏

カラー情報やシーズンの売れ筋情報などを踏まえ、  
国内外の素材展の状況はもちろん、  
ファッション業界を取り巻く、様々な関連情報にも触れながら  
幅広く、判り易く状況分析を行います。



●車純子氏プロフィール  
㈱東洋紡FPIにて25年間東洋紡績の原糸開発・テキスタイル開発に従事。  
ウール・コットン・ポリエステルや様々な複合糸などの開発携わる。  
その後フリーとして各産地の素材開発、産地活性化のプロモーション活動や  
JCやCBFなどのトレンド委員として、素材開発支援事業のプロデュース。  
JAFC Aなどのシーズンテキスタイルセミナーや、文化服装学院のテキスタイル科講師など  
後進の育成を目指しながら、異業種とも交流中。

平成30年 4月23日【月】13:30~15:30  
岐阜毛織会館 会議室  
【岐阜県羽島市竹鼻町蜂房448 TEL 058-391-8511】  
セミナー会場に隣接する「テキスタイル・マテリアルセンター」も、是非この機会にご覧  
下さい。(全国の素材サンプル約10万点収蔵。随時追加)  
HP <https://matesen.com>

主催：岐阜県繊維デザイン協会  
共催：岐阜県産業技術センター、(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター  
日本毛織物等工業組合連合会、尾州テキスタイルデザイナー協会、



参加費…無料

●お申し込み/お問合わせ先  
岐阜県毛織工業協同組合事務局(岐阜毛工) 山田  
TEL 058-391-8511 FAX 058-391-8512  
E-mail: gikokou@estate.ocn.ne.jp

●締め切り：4月18日(水)まで

●交通アクセス  
●東海道新幹線 岐阜羽島駅および名鉄竹鼻線  
●名神高速道路 岐阜南ICより車で5分  
●名鉄竹鼻線 江古美駅より徒歩20分

### 産官学連携事業3 テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした辞場産業の振興に関する協定に基づく産学連携事業

#### 車純子氏 2019年AWの素材トレンドセミナーと工場見学

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 太田 幸一、  
准教授 中谷 友机子、助教 柴田 佐和子

主催：岐阜県毛織工業協同組合

後援：(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター、尾州テキスタイルデザイナー協会、日本毛織物等工業組合連合会

開催日時：平成29年10月29日(月)13:30~16:30

会場：岐阜毛織会館(テキスタイル・マテリアルセンター)  
茶仙染工株式会社(愛知県一宮市)

受講者数：生活デザイン学科1年生19名

平成30年4月23日(月)車純子氏「2019年 春夏カラー&素材傾向」セミナーに引き続き、「2019年~20年 秋冬テキスタイルトレンドセミナー」を聴講した。2018年の春夏の結果から2018年-19年秋冬状況を分析、また2019年-20年秋冬のインターカラーやJAFCAカラー情報などを解説された。さらに2020年春夏カラー提案速報などわかりやすく説明された。学生たちは最新情報を聴講し、分析の捉え方を再認識するセミナーとなった。

セミナー聴講後、茶仙染工(株)という糸の染色工場を見学した。糸の染色には「かせ染め」と、「チーズ染め」(巻き付けたものをチーズと称す)がある。かせ染めは手間がかかるがムラ無く染まり、チーズ染めは効率が良い利点がある。いずれもテキスタイルの風合いや仕上げから染め方を選定する。染色は機械が行うがそれまでの工程は人の手が必要で手間がかかる。学生たちは実際に工場の工程を目にし、より理解が深め貴重な体験が出来た。

## 産官学連携事業 4 テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした地場産業の振興に関する協定に基づく産学連携事業

### 工場見学 紡績・製織・丸編工場訪問

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 太田 幸一、  
准教授 中谷 友机子、助教 柴田 佐和子

主催：岐阜県毛織工業協同組合、羽島市、岐阜市立女子短期大学

開催日時：平成30年5月29日（火）12：30～18：20

会場：東和毛織株式会社、宮田毛織工業株式会社、株式会社維研

受講者数：生活デザイン学科2年生17名

岐阜県毛織工業協同組合、羽島市との協定に基づき、生活デザイン学科ファッション専修2年生を対象に、愛知県一宮市の「東和毛織株式会社」「宮田毛織工業株式会社」江南市の「株式会社維研」の見学を実施した。

東和毛織株式会社は特殊梳毛の織編糸や手芸糸を生産している。紡績・撚糸工程を実際に見学することにより、繊維から糸が作られる工程を理解させることができた。宮田毛織工業株式会社はニット生地企画製造販売を手がけており、最新の丸編工場を見学し、ニットの製造工程を把握することができた。さらに、デジタルプリント機の実機についても見学することができた。株式会社維研ではジャカード織機によるカーテン地の生産を行っており、製織工程だけでなく、デザインの作業についても見学することができた。



## 産官学連携事業5 テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした地場産業の振興に関する協定に基づく産学連携事業

### 工場見学 製織・染色仕上・起毛工場訪問

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 太田 幸一、  
准教授 中谷 友机子、助教 柴田 佐和子

主催：岐阜県毛織工業協同組合、羽島市、岐阜市立女子短期大学

開催日時：平成30年10月25日（木）12:30～18:30

会場：テキスタイル・マテリアルセンター、羽島起毛、三星染整株式会社、  
葛利毛織工業株式会社

受講者数：生活デザイン学科1年生17名

岐阜県毛織工業協同組合、羽島市との協定に基づき、生活デザイン学科ファッション専修1年生を対象に、愛知県一宮市の「葛利毛織工業株式会社」と羽島市の「羽島起毛」「三星染整株式会社」の見学を実施した。葛利毛織工業はションヘルと呼ばれる自動織機で織った生地が主力製品である。生地は高級ブランドなどで使用されている。織物製造工程と毛織物の特徴について理解を深めた。三星染整株式会社はウール・綿などの天然素材から合成繊維まで、織物・ニットなどの染色整理加工を手がけている。羽島起毛は整理加工の一つである起毛加工を行っている。両者の見学で染色整理加工工程の特徴を理解することができた。

これらの工場見学により、繊維製品の製造過程を把握させることができた。



## 産官学連携事業6 平成30年度 翔工房参加

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 太田 幸一、  
准教授 中谷 友机子、助教 柴田 佐和子  
主催：(公財)一宮地場産業ファッションデザインセンター  
開催日時：平成30年6月8日(金)～平成31年2月22日(金)  
会場：一宮地場産業ファッションデザインセンター 他 尾州産地  
参加者数：2名

翔工房は、愛知県一宮市にある公益財団法人一宮地場産業ファッションデザインセンターが主催する人材育成事業のひとつで、通算10回目を迎える中で、本学の参加は7回目である。平成30年度は、全国から23校47名の応募があり、書類審査(5月17日(木))とプレゼンテーション(6月8日(金))の結果、25名が選出され事業に参加した。その中、ファッション専修2年の学生2名が参加することに決まった。

数回の合同ミーティング、個々の講師と受講生の製作に関する打合せ、工場見学を経て、最終の成果は、平成31年2月21日～22日に開催された、尾州テキスタイルの総合展「THE 尾州」での展示と、2月22日(金)の「翔 the SHOW 2019」において、ファッションショー形式で発表された。「painting stain」のテーマで参加した学生は、たくさんの色が混ざり合ったパレット、絵の具が飛び散ったアトリエを、モール糸、金糸、毛糸などが複雑に混ざり合ったジャガード織で表現した。講師は、岩田善之氏である。また「Familiar Silk」のテーマで参加した学生は、美しい絹を生み出すカイコに注目し、そのテクスチュアを綿と絹スラブ糸の交織で表現した。講師は、濱田良孝氏、水谷仁氏である。

ファッション専修の4名の教員がプレゼンテーション、衣装デザイン、制作の面で指導を行った。

## 産官学連携事業7 テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした地場産業の振興に関する協定に基づく産学連携事業

### ウール講座①繊維から布へ

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 太田 幸一、  
准教授 中谷 友机子、助教 柴田 佐和子

主催：岐阜県毛織工業協同組合、羽島市、岐阜市立女子短期大学

開催日時：平成30年6月19日（火）12：30～18：30

会場：岐阜毛織会館（テキスタイル・マテリアルセンター）

受講者数：生活デザイン学科1年生59名

羽島市との連携事業の一つとして、ウール素材について、その特徴を把握させるために実際の素材に直接触れるとともに、製造現場を見学するウール講座を実施した。生活デザイン学科の専門教育科目のうちの基礎科目である生活材料学の15回の講義のうち2回相当の講義をこのウール講座に割り当てた。

昨年と同様、テキスタイルマテリアルセンター収蔵の10万点もの素材を実際に閲覧することにより、各種素材の触感、デザイン性などについて実物を通して体感し習得してもらった。また、興味のある素材を選択し、マテリアルセンターの岩田講師により生地の説明を受けテキスタイル素材の理解を深めた。

また、テキスタイルマテリアルセンターの近隣にある製織工場（山羊毛織 羽島市上中町中、鶺鴒毛織 羽島市上中町長間）経編工場（（有）マルセンニット工業 岐阜県羽島市上中町一色）において、織物および経編の製造現場を見学し、織編み物の製造工程の特徴について理解を深めた。織編み物の製造原理などを実機により把握することができた。



## 産官学連携事業 8 テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした地場産業の振興に関する協定に基づく産学連携事業

### ウール講座②布の仕上げ加工と風合い

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 太田 幸一、  
准教授 中谷 友机子、助教 柴田 佐和子

主催：岐阜県毛織工業協同組合、羽島市、岐阜市立女子短期大学

開催日時：平成30年11月30日（金）15：30～17：00

会場：岐阜毛織会館（テキスタイル・マテリアルセンター）

参加者数：生活デザイン学科1年生19名

布の仕上げと風合い、テクスチュアについてテキスタイルデザイナー2名から講義を受けた。講師は、(有)カナーレ社長 足立聖氏と(株)イワゼン社長 岩田善之氏である。

足立氏からは、氏が現在手がけている様々な素材のテキスタイルを学生に示しながら、どのようにして発想するのか、どのように織るのか、さらにはどのように仕上げるのかについての講義があった。学生は、実物に触れながら講義を聴くことができ、テキスタイルの魅力に触れることができた。

岩田氏からは、テキスタイルを作る糸の種類、組織図と実際の織物を突き合わせた紹介や、ジャカード織を織るための紋紙などを見せていただいた後、氏が今までに手がけてきたテキスタイルの紹介とともに、依頼したデザイナーについても講義があった。ファッションデザイナーがどのようにテキスタイルデザイナーとコンセプトを確認しあい、オリジナルの生地を作り上げていくのかについて、学生は興味を持って耳を傾けた。



## 産官学連携事業 9 こどものもり ～岐阜市民病院小児病棟 リノベーションプロジェクト 2018～

担当者：生活デザイン学科 准教授 奥村 和則、准教授 小川 直茂、  
専任講師 坂本 牧葉、助手 古閑 早央里

開催期間：平成 30 年 10 月 17 日（水）～平成 31 年 3 月 5 日（火）

参加者数：生活デザイン学科 ヴィジュアル専修 1 年生 19 名

本事業は、平成 27 年度から岐阜市民病院との産学連携事業として継続的に取り組んでいるプロジェクトである。今年度は中央病棟スタッフステーション前に位置する約 50 m<sup>2</sup>の壁面を対象として壁画の制作に取り組んだ。制作期間中には、毎年恒例となっている病棟入院患者や病棟スタッフを交えたペインティング体験イベントなども開催し、好評を博した。なお、本事業の様子が中日新聞、ぎふチャン（テレビ放送およびラジオ放送）などのメディアで取り上げられ、注目を集めた。

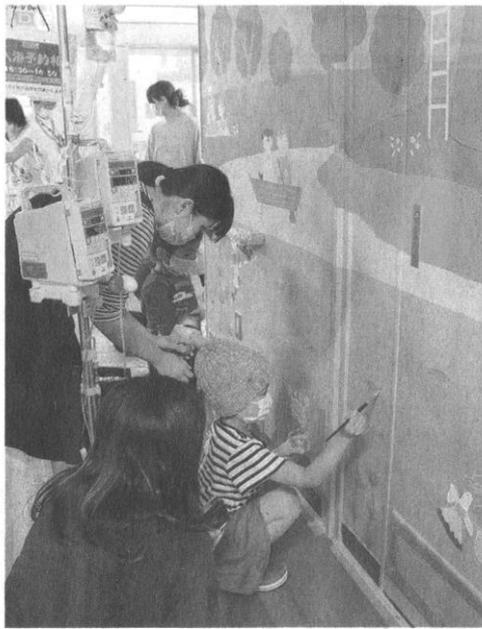


# 病棟に愛らしい絵

## 岐阜市民病院 入院の子と短大生

岐阜市立女子短大生活デザイン学科の一年生約二十人が、市民病院(岐阜市鹿島町)の小児病棟で壁面のペイントに取り組んでいる。一日は入院中の子どもたちと一緒に絵筆を執った。病棟の雰囲気明るくし、ようと四年前から続ける活

動で、エレベーターホールや廊下など制作の範囲を毎年広げている。「こどもの森」をテーマに自然豊かな世界をイメージし、二月二十五日に作業を始めた。一日は患者五人や家族も参加し、教員の手ほどきを受けながら、湖に映る魚影



に夢中で色を塗った。学生たちもカエルやトキなど、それぞれが考えた動物のキャラクターを愛らしく表現した。

子どもたちの姿を見守った富井綾理さん(丸)は「絵が上手かどうかに関係なく、生き生きした表情が見られてうれしい」と話した。壁画は五日に完成する予定で、来年は別のフロアにも絵を描くという。  
(近藤統義)

病棟の壁面に色を塗る入院患者の子どもたち。岐阜市鹿島町の市民病院で

# 産官学連携事業 10 テキスタイルマテリアルセンターを教育拠点とした地場産業の振興に関する協定に基づく産学連携事業

## 親子羊毛フェルティング体験

担当者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 太田 幸一、  
准教授 中谷 友机子、助教 柴田 佐和子

主催：岐阜県毛織工業協同組合

協力：岐阜市立女子短期大学・羽島市

開催日時：平成30年11月11日（日）13:00～16:00

会場：毛織会館（テキスタイルマテリアルセンター）

受講者数：親子合計44名（幼児含む）

ワークショップは、羽島市内の小学生の親子を中心に37名が参加した。ワークショップの内容は羊毛の絡み合う性質や特徴を活かし、羊毛布にニードルパンチで羊毛の原毛や毛糸を付着させる、フェルティング体験のワークショップである。岐阜県毛織工業協同組合側から2名、本学ファッション専修教員4名、羽島市から2名、合計8名が講師として指導をおこなった。

親子は思い思いの図案で制作し、子供達に羊毛の性質や特性に触れてもらう貴重な機会となった。ワークショップは好評で終了した。

**参加費 無料** 平成30年度 好評につき  
**テキスタイルマテリアルセンター**  
**親子羊毛フェルティング体験**

国内最大級のテキスタイル資料館「マテリアルセンター」で、ニードルパンチを使って、一緒にフェルティング体験をしましょう！



針で刺すだけ簡単！




**日程** 11月11日(日)  
**時間** 13時00分～16時00分  
**会場** 毛織会館(テキスタイルマテリアルセンター) 2階研修室  
(羽島市竹鼻町蜂尻448番地)

**定員** 親子15組30人

- 体験に必要な材料、道具は主催者が用意します。(参加費無料)
- 出来上がった作品はお持ち帰りいただけます。
- 優秀な作品を表彰します。表彰の方にはお菓子などをプレゼント！

**申込受付期間** 9月25日(月)～10月31日(水)

☆参加希望の方は、上記受付期間内に電話(平日 058-391-8511)にてお申し込みください。  
定員に達し次第、受付を終了させていただきます。

お問い合わせ  
テキスタイルマテリアルセンター TEL 058-391-8511 <https://matessen.com/>  
主催：岐阜県毛織工業協同組合 協力：岐阜市立女子短期大学・羽島市



## 産官学連携事業 1 1 第 28 回 ア・ミューズ岐阜

担 当 者：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子、准教授 中谷 友机子、  
助教 柴田 佐和子

主 催：岐阜ファッション産業連合会

協 力：岐阜市立女子短期大学生活デザイン学科、飯原服装専門学校、  
岐阜女子大学、コロムビア・ファッション・カレッジ、  
ヴィジョンネクスト情報デザイン専門学校

後 援：岐阜県、岐阜市

開催日時：平成 31 年 3 月 5 日（火）～3 月 6 日

会 場：じゅうろくプラザ 2F

入場者数：5000 名（延べ入場者数）

参加者数：生活デザイン学科 1 年生 12 名

第 28 回ア・ミューズ岐阜において、スチューデント・プレビューショーが 3 月 5 日（火）に実施された。飯原服装専門学校、岐阜女子大学、コロムビア・ファッションカレッジ、ヴィジョンネクスト情報デザイン専門学校とともに参加し、ファッション専修学生の卒業制作作品およびコンテスト入選作品のうち 12 点を再構成して発表した。

産業界が若い力を必要としており、将来ファッション産業を担う学生を応援するプロジェクトとして開催された。これまでも、同様の取り組みは平成 23 年度から 27 年度も行われていたが、平成 28, 29 年度は開催されず、3 年ぶりに再び開催されることになり各校が作品を披露した。

また、ファッション専修 1 年生 4 名、2 年生 4 名がアパレル企業によるフロアショーのプロモデルのフィッターを担当し、スタイリストの指導のもとに、ショー運営を体験した。プロとの協働を体験でき、ファッション業界への理解を深めるなど、産地で学ぶという本学の利点が活きる貴重な機会であった。

## 4) 高大連携事業

### 高大連携事業 1 中国文化論

講師名:国際文化学科 教授 王武雲

開催日時:平成 30 年 4 月 9 日～8 月 6 日

(隔週月曜日 14:40～16:10 合計 7 回)

会場:岐阜市立女子短期大学

受講者数:国際文化学科1年生 70 名、岐阜市立岐阜商業高等学校 13 名

この講義は、中国の少数民族、食文化、茶文化、大衆文化などの側面から中国を観察し、中国の文化に触れてもらうことが目的としている。中国には漢民族以外に 55 の少数民族があり、それぞれの民族は独自の文化や習慣をもっている。中国における少数民族の社会や文化を考察しながら、中国社会の多様性を概観した。

この科目は、岐阜市立岐阜商業高等学校の連携授業で、同校から毎回 13 名の生徒が教員 1 名の引率で岐阜市立女子短期大学へ来学し、国際文化学科1年生と共に受講。最終回の授業アンケートによると、授業の雰囲気について「高校生と一緒に授業を受けることで、互いが刺激され、考え方を知ることができた」、「違う目線での意見を知ることができてとてもいいと思う」などの声が多かった。一方、高校生たちから「高校で学べないことが学べた」、「大学生の方たちと一緒に考えたり、話をしたりして、大変勉強になった」など、高大連携授業に対して双方から高い評価が得られた。

## 高大連携事業 2 中国語合同発表会

講師名:国際文化学科 教授 王武雲

開催日時:平成 31 年 1 月 16 日、1 月 28 日 (合計 2 回)

会場:岐阜市立女子短期大学

受講者数:国際文化学科1年生 69 名、2 年生 10 名、岐阜市立岐阜商業高等学校 13 名

平成 31 年 1 月 16 日に「中級中国語会話Ⅱ」(国際文化学科 2 年生の履修科目)、と 1 月 28 日に「初級中国語Ⅱ」(国際文化学科 1 年生の履修科目)で岐阜市立女子短期大学国際文化の学生と、岐阜市立岐阜商業高等学校の生徒と中国語の合同発表会を行った。発表内容は事前に大学生と高校生に知らせ、暗記してもらった。発表時間は一人(或いは一つペア)2 分以内で、高校生も大学生も発表を熱心に聞いていた。お互いによい刺激を与え合った合同発表会になり、今後も継続してほしいという声が多かった。

### 高大連携事業3 情報処理「卒業研究」合同発表会

講師名：国際文化学科 教授 木村充位、専任講師 松浦康之

開催日時：平成31年1月24日（木） 13:00～16:10

会場：岐阜市立女子短期大学

受講者数：国際文化学科2年生17名・岐阜市立岐阜商業高等学校2年生6名

平成31年1月24日（木）3・4時限目に情報処理専門の木村ゼミ・松浦ゼミ所属の2年生17名と岐阜市立岐阜商業高等学校経営管理科2年生6名で合同の「卒業研究」発表会（ホームページ作成・プログラミング）を行った。本学の学生はExcelのマクロを使ったプログラムで作成した自作のゲームやJavaScriptを用いたホームページの紹介をした。高校生もExcelのマクロを使って作成してきた自作のゲームを紹介した。高校生・大学生ともにお互いの作品発表を熱心に聞いており、刺激をし合えるいい合同発表会になった。

## 5) 出張講座

### 出張講座1 生活デザイン&ファッション講座① 「ダーニングで素敵によみがえるセーター」

講師名：生活デザイン学科 教授 村上 眞知子  
主催：岐阜市立図書館分館ファッションライブラリー  
開催日時：平成30年6月16日（土）13：30～15：00  
会場：ファッションライブラリー  
受講者数：10名

ダーニングとは「かがること」、「繕う」ことを意味する、イギリスの伝統的な修繕技術のことである。「暮らしの手帖」84号（2016年10-11月号）やNHK-BS「美の壺 セーター」の中で取り上げられている。日常の衣生活の中では、大事なセーターに虫食い穴ができてしまった、引っ掛けて糸が出てきている、シミを付けてしまった、ということがよくある。肘などは知らないうちに摩耗で薄くなってしまっている。捨てるには忍びない。そんなセーターを自由な色づかいでつくろってみる講座である。

できれば、木製のダーニングマッシュルームを準備する。繕いたい部分をマッシュルームの笠の部分に置いて、好きな彩りで刺していく。刺し方は、刺繍のようにしてもいいのだが、今回紹介し体験したのは、写真にあるような、小さな織物様の繕い方である。糸の色は、何もセーターの色とそろえることはなく、自由に刺してもらえばいい。

良い素材のものを大事に使う、丁寧な生活のしかたが見直されているなかで、参加者は思い思いの毛糸でダーニングを楽しんでいた。

本講座の様子は、中日岐阜ホームニュース どまんなか7月号（7/21発行）に掲載された。



## 出張講座2 生活デザイン&ファッション講座② 「ニードルパンチでランチョンマットとコースターを作 りましょう」

講師名：生活デザイン学科 准教授 中谷友机子

開催日時：平成30年10月6日(土) 13:30~15:00

会場：岐阜市立図書館 分館 ファッションライブラリー

受講者数：4名

フェルトにニードルで羊毛を付着させて、オリジナルなランチョンマットとコースターを製作した。フェルトに好きな図案をあしらい、楽しいランチョンマットとコースターを製作し、手の早い受講者は何枚も製作した。



【オリジナルブランド企画展「Brand Style」】展示 担当：准教授 中谷友机子  
出展者：岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 ファッション専修2年生  
日時：9月29日(土)~10月16日(火) (午前9時~午後9時)  
場所：岐阜市立図書館 分館 ファッションライブラリー  
マイブランドプランニングMAP製作。ブランド企画(コンセプト、ターゲット)からショッププロモーションまでを考案した2年生の企画書を展示した。

### 出張講座3 生活デザイン&ファッション講座③ 「パイプを使ってマフラーを織ろう」

担当者：生活デザイン学科 准教授 太田 幸一

主催：岐阜市立図書館分館

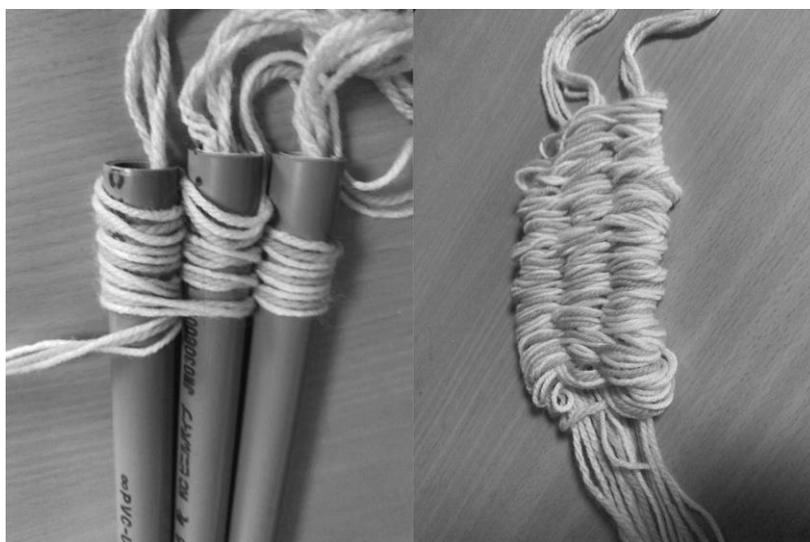
開催日時：平成30年11月3日（土）13：30～15：00

会場：岐阜市立図書館分館 ファッションライブラリー

受講者数：16名

岐阜市立図書館分館での生活デザイン&ファッション講座は今までと開講時期が異なることから、簡単なマフラー制作についてワークショップを企画した。マフラーの制作方法としてはパイプを用いてざっくりとした構造の織物を作成する方法を採用した。

参加者には事前に食品用ラップの芯を準備してもらい、準備ができなかった参加者には別途用意した塩ビ管を使用してもらった。比較的作業も簡単であるため、ほとんどの参加者が時間内にマフラーを1本製作し終えた。なお、今回はテーマと開催時期の関係で子どもの参加がなかった。



## 6) 生活デザイン学科特別講義

### 「人間賛歌」

講師名：客員教授 山本 寛齋

主催：岐阜市立女子短期大学

開催日時：平成30年10月15日（月）14：40～16：10

会場：岐阜市立女子短期大学 5階 大会議室（1-501）

受講者数：106名（生活デザイン学科1年生61名、2年生45名）

一般20名（うち他学科学生2名）

今年度、後期の特別講義は、1971年ロンドンにおいて日本人初のファッションショーを開催され、世界的デザイナーとして名高い山本寛齋先生をお迎えし、ファッションの原点から現在までについて御講義していただいた。

山本寛齋先生の華麗でエネルギッシュな作品を、年代の変遷とともに御説明いただいた。作品製作には、強い信念と勇氣ある行動が必要であり、そのエネルギーがデザイン力をより一層高めていくことを、山本寛齋先生の御講義で学生たちは理解することができたと思う。

岐阜市立女子短期大学  
Gifu City Women's College

10/15  
(月)14:40-16:10

岐阜市立女子短期大学  
5階 大講義室(1-501)

講師略歴

1971年ロンドンにおいて日本人初のファッションショーを開催する。1974年から1992年まで、パリ・ニューヨーク、東京のファッションに参加し、世界的デザイナーとして地位を築く。

1993年以降は、ファッションデザイナーの職を離れ、スベテラブルなライブイベントのプロデューサーとして活動。世界中でGANSU、SUPER、SHOW、や日本光電プロジェクトを開催し、総動員数500万人以上にのぼる。

2008年108期岐阜県学生アソシエーション、社団法人の総合プロデューサー、形成スライダーツ、新築車庫のアデザインを担当し、2010年度グッドデザイン賞、2011年ブルーリボン賞を受賞。

2016年より岐阜県立芸術大学の「山田行博まつり」アドバイザーを務めるなど、幅広いジャンルで活躍中。

岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 特別講義  
講師 山本寛齋 客員教授

【特別講義に関するお問い合わせ先】  
岐阜市立女子短期大学 生活デザイン学科 (5階 501号)  
岐阜市一日市場北町7番1号 TEL:058-296-3131  
<http://www.gifu-cwc.ac.jp/>